

第6 課題「PTA 及び地域社会に関する課題」

『地域社会との連携を生かした 教育活動の推進』 ～地域の教育センターとの連携を通して～

峡南支部

I はじめに ー主題の設定の趣旨ー

身延町・南部町では、「地域の学校」「地域で育てる子ども」という考え方が根付いている。教育は、単に学校だけで行われるものではない。家庭や地域社会が、教育の場として十分な機能を発揮することで、子どもたちの健やかな成長につながっていく。家庭や地域社会での教育の充実を図るとともに、社会の幅広い教育機能を活性化していくことが、重要となってくる。地域社会での教育の更なる充実に向けて、学校と様々な機関や団体等が連携し、ネットワーク化を図っていくことが求められている。また、学校と地域住民や保護者等が力を合わせて、子どもたちの学びや育ちを支援する地域基盤を再構築していくことも重要である。こうした観点から、学校と地域の連携・協働を一層進めることの重要性が増している。

本研究では、2町それぞれにある教育センターを核とした、「地域社会との連携を生かした教育活動の推進」に係る現状や実態を把握し、臨地研修を行うことによりスタッフの声を聞くことで、よりよい地域連携のあり方について研究していく。また、学校側から、働きかけや提案できることを検討し、協力の依頼や支援の要請など、連携のあり方を探る視点を大切に研究とする。

II 研究のねらい

南部町には教育支援センター、身延町には教育研修センターがあり、地域と学校をつなぐ役割を担っている。地域の人的・物的資源を活用して事業を行っているそれぞれの教育

センターについての情報交換を行い、現状や実態を把握する中で、地域社会と学校との連携について考察し、よりよい活用方法について探っていく。

III 研究の経過

令和5年度（1年次）

【計画立案】

- ・研究組織及び研究課題等の確認
- ・現状の把握 ○身延町教育研修センター
○南部町教育支援センター
(連携や各事業の状況把握や
各事業の見学等)
- ・現状の課題と課題解決に向けての
方策の立案

令和6年度（2年次）

【計画立案】

- ・研究組織及び研究課題、
研究方法等の確認
- ・臨地研修 ○身延町教育研修センター
○南部町教育支援センター
(連携や各事業の各事業の見学等)
- ・現状の課題と課題解決に向けての
方策の立案

令和7年度（3年次）

【研究立案】

- ・研究組織及び研究課題等の確認
- ・実際の活動の見学を通して様子を知り、
課題や要望を把握
- ・課題解決に向けての方策の検討

IV 研究の概要

これまで、教育センターの情報をもとに、各校にとったアンケートをまとめ、その内容を元に臨地研修において明らかになった内容をまとめてきた。今年度は特に両町の学習支援事業を中心に現場の様子や要望を把握し、より一層連携を図る方策を探る。

- (1) 2つの教育センターからみる類似点、
相違点を通しての考察

<類似点>としては

- ・南部町では、地域で学校を支える、身延町では、子どもたちが、確かな学びに出会えるサポートと教職員のサポートといった点から、学校と地域・行政をつなぐパイプ役であるといった点が共通点と考えた。①学習サポート ②ICT推進 ③外国語（イングリッシュキャンプ） ④副読本。
- ・どちらも地域の学校教育を支え、充実を図り、教育振興を目指し設立されている。主な活動として次の事業を企画運営している。◇教職員の研修 ◇児童生徒の学力向上（未来塾/向学館） ◇ICT教育支援
- ・学力向上を目的とした学習支援（なんぶ未来塾 [以後未来塾] と学びの向学館 [以後向学館]）、ICT教育支援、小学校の英語に関する事業（イングリッシュキャンプ）、町主催の研修会、社会科副読本の編集、各種検定サポート。
- ・両センターとも、夏季休業中に教職員研修を実施しており、近年はICTの活用に関わる内容となっている。

<相違点>としては

- ・不登校対策支援事業（南部町のみ、身延町はやまなみ教室）、教育相談、小学校合同授業（南部町のN授業：小学校合同の授業）、児童向けプログラミング教室（身延町）、学校支援ボランティア派遣（南部町）。
 - ・身延町教育研修センターは、町の教育振興のために研究・研修の場を設けることを目的に設置された。そのため、教職員を対象とした各種研修が主な業務であった。現在は児童生徒の学習支援事業が中心になっている。南部町教育支援センターは、学校教育を支える拠点として設置された。児童生徒の学習支援、不登校児童生徒への支援、N授業、イングリッシュキャンプなど児童生徒を対象としたものが主になっている。
- (2) 教育センターについてのメリット

- ・地域の児童生徒や学校を支える存在があるということ。学校だけではできないこと（週休日や夜間の学習支援事業、不登校対策など）を行ってくれている。教職員の負担軽減になっている。
 - ・町（教育委員会）が子どもの教育に関わる事業を運営している。南部町には学校支援地域本部が教育委員会内（支援センター内）に置かれ、地域の方の力を学校に生かす事業がある（学校支援ボランティア）。
 - ・これまで、学校教育が行っていた業務や学校教育で行き届かなかった支援を教育センターが担うことで、教職員の負担軽減や地域人材の活用、地域との連携の活性化につながっている。
 - ・学校だけでは時間的にも労力的にもやりきれない点について補助してもらえる。学校独自で探さなければならない人材に関してすぐに対応してもらえる。
 - ・地域と学校・行政をつなぐパイプ的役割、教職員の負担軽減、子どもたちの多様な学びの設定がある。
 - ・不登校対策では、学校になかなか登校できない児童生徒の支えとなってもらっている。
- (3) 教育センターと学校との関わり（活用状況）について
- ・N授業の実施、ICT支援（学習ソフトのインストール、教職員研修等）、学校支援ボランティアなど。地域の方々が学校支援ボランティアとして登録されていて、学校の環境整備や陸上指導を無償で行ってくれている。
 - ・地域や学校の実態に合った形で、連携し合いながらそれぞれの事業を展開している。学習支援（未来塾、向学館）は大いに活用している。
 - ・向学館への参加、夏季休業中のイングリッシュキャンプやICTに係わる研修会への参加等。

- ・教職員向けの ICT 研修会（教職員研修会）、副読本編集委員会、英語・漢字・数学検定サポート及び取りまとめ。
- ・生徒が参加する向学館(中1・中3)、イングリッシュキャンプ、英検チャレンジサポート。教職員の研修は ICT 研修、ICT 支援員の活用。

(4) 臨地研修から明らかになったこと

<身延町教育研修センター>

- ・身延町の子どもたちが確かな学びに出会えるためのサポートと多忙な小中学校の先生方のサポートを少しでもしていくようにしている。そのために取り組む今年度の教育研修センターが関わる主な事業は、学びの向学館に関する事業、ICT 教育の推進に関する事業、小学校外国語科・外国語活動の充実に関する事業の3つ。
- ・向学館(小学生)では、小学生学習サポート事業において、参加者は小学校3年生から6年生の37名で、西嶋・下部・下山・身延の4カ所で行っている。毎月第1、第3土曜日に行っている。周りに友だちがいて話しながら勉強ができることで学ぶ意欲が醸成されている。学習内容は子どもの自主性に任せ、常に講師の先生が机間巡視してくれ、様子を見ながら的確に声をかけてくれていた。また、講師が用意した教材を児童に提案してくれる場面も見られた。
- ・向学館(中1)では、中学校1年生の学習サポート事業で、中学校1年生の6名程度を指名して参加させている。退職した先生方3名にお願いをして数学・英語の2教科を7月、8月の長期休業中に5回開催している。少人数なので、話をよく聞いて寄り添ってあげることができている。終了後には「英語や数学がすごく楽しい」という感想も聞くことができた。
- ・向学館(中3)では、中学校3年生の学習サポート事業で、今年度は46名中39名を対象に退職された先生方12名にお願いをし

て、国語・数学・英語が行われている。7月から2月まで土曜日を基本に開催されている。全部で21回。長期休業中は土曜日以外の日を当てている。

- ・OB、OGの先生方の多くの協力が得られていることで地域の先生が地域の子どもの教えることができている保護者にとっても安心感がある事業となっている。一方で今後定年延長が進むことにより講師の確保が難しくなってくるのが懸念される。
- ・イングリッシュキャンプは、以前は1泊2日で行っていたが、現在は日帰りで行っている。小学校6年生を対象に26名が参加。中富地区公民館西嶋分館を会場に行われている。指導者はALTの4名に依頼をした。町内3校の6年生の交流の場としても貴重な機会となっている。児童の事後アンケートでは、とても前向きな結果が得られている。中学校1年生は希望者30名、TGG (Tokyo Global Gateway) という企業に依頼をし、研修センター主事と教育委員会職員、中学校英語教員が補助に当たった。中学2年生も冬に同じ形で行われる。小学校では町内3校の6年生が交流を行う貴重な機会であり、このような経験の積み重ねが大切だという思いで行っている。また、学校の教職員に負担をかけないことにも配慮している。
- ・英検チャレンジサポート事業では、中学校1・2年生で英検4級程度の英語力を身に付けさせることを目標としている。身延公民館下山分館で12月から1月の3日間で行われる。無理のない目標設定とすることで、まずは嫌にならずに楽しいと思ってもらうことを第一に考えている。
- ・プログラミング教室では、町内3小学校4年生、5年生、6年生の希望者17名で行われた。「テキストストーリー」という会社に委託してそのスタッフ2名が担当し、1日開催された。今年度は、「りんごキャッ

チゲームを作ろう！」「迷路を作ろう！」というテーマで行われた。

- ・ICT教育推進委員会が設置され、年間3回のICT教育推進委員会を行っている。各学校の情報主任が中心となって、ICT活用実践を交流したり、それぞれの抱える課題や問題点を出し合い研修センターの補助を受けたりしながら解決に当たっている。さらにICT支援ポータルサイトを設置し、町内の先生方にID・PWを割り当ててこれを利用できるようにしている。夏休みには町内4校の職員が合同で学習会を行った。一人一台端末を活かしたCanvaの共有の仕方や実践事例の共有を行った。

<南部町教育支援センター>

- ・チャレンジ教室（適応指導教室）では、R6年度は4名の生徒が通級。1名は過年度生の生徒である。特定の授業を行うのではなく、自学自習が基本となる。どの生徒も黙々と学習に励んでいる。進学先は主に通信制の高校になる。
- ・N授業では、小学4年生は英語、5年生はふるさと学習をテーマに行っている。町内3校の小学生が合同に行う授業で、指導案や教材は主に毎年共通したものを使っているため、学校の先生方の負担は少なくなっている。5年生のふるさと学習は、主に「ふるさとかるた」という南部町特有のカルタを利用した、ふるさと学習が行われる。今後統合によって2校になったときの合同授業の持ち方などが課題となる。
- ・ICT支援では、今年度主に校内研究会のサポートや教研での講師派遣、町内の職員を対象とした研修のサポートを行っている。
- ・学校支援地域本部事業(学校支援ボランティア)では、草刈り、読書ボランティア等を行っている。どのボランティアを募集するかは学校から要望をあげ、これらを町内全戸に配布して、ボランティアを募った。

ボランティアの内容は毎年見直し、30人程度が登録している。登録者への報酬は無いが、積極的に協力をしてきている。

- ・教育相談では、電話での対応が主なものになる。ここでの相談は、はじめに支援センターのスタッフが対応するが、解決できないものなどは峡南や県への相談所へとつなげていく。
- ・支援センター発足時は未来塾から始まった取り組みだが、チャレンジ教室→地域連携→ICT支援と事業が広まっていった。
- ・未来塾は学力向上を目的に、毎月2回程度、土曜日の午前中に小学生を、午後中学生をそれぞれ指導者2名ずつで担当している。指導者については、町内在住の教員OBが担当している。今年度の参加児童及び生徒数は、南部地区は小学生5名、中学生11名、富沢地区は小学生4名、中学生5名である。
- ・未来塾に参加している児童の感想から、先生がわかりやすく教えてくれることや学習したい内容(教科)の希望に応じてもらえることが挙げられ、有効に活用していることがうかがえる。

V まとめ

(両センターの課題と今後について)

- ・少しでも学校での負担が少なくなるように業務を肩代わりしていくことが目的で、スタッフの後継者も今のところは見つけられている。今後教育委員会に働きかけて事業を発展させていく。教育を語る会などで、要望をあげていくことが必要になる。
- ・今後人材の確保が次第に難しくなっていくことが懸念される。そうになると事務局の負担という点も考慮した取り組みを考えていかなければならない。
- ・地域の人材が地域の子どもを教えることで保護者や学校を支えることができているが、今後講師の確保が困難になってくるこ

とが予想される。そのため範囲を広げて人材確保をすることも検討していかなければならない。

- 向学館や未来塾では児童生徒の参加人数が地域によって大きく差がある。学区が広い
ため開催される各公民館へのアクセスの問題
が大きいと考えられる。臨地研修でわか
った主催者側の思いや参加児童の学習の様
子などを他の児童生徒にも伝えることで参
加人数が増えるようにしていきたい。ま
た、子ども同士の口コミも効果的だと考え
られるので、途中からでも参加できる体制
を検討できるとよいのではないか。

初年度は身延町や南部町での教育センターの概要から、それぞれの取組状況を知り、二年目は臨地研修を行いセンターのスタッフとの交流の中で課題等を知ることができた。今年度は、学習支援事業の向学館と未来塾も臨地研修を行い、児童生徒の学習の様子を知り講師の先生との交流をすることもできた。また、教育センターの方が取り組みにかける思いや課題等を聞くこともできた。地域社会との連携を生かした教育活動の推進を今後も目指していきたい。

(文責 松岡 充宏 志村 英一)